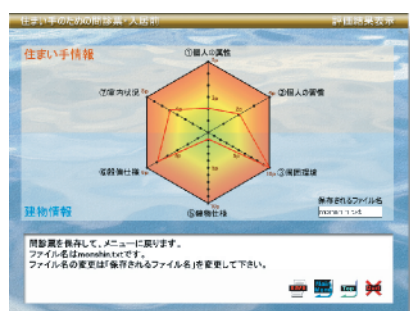


室内化学汚染防止対策の 総合情報発信・評価システムの開発

森川 泰成・梅田 和彦・洞田 浩文

Development of Diagnostic Questionnaire Sheet and Prediction System for Sick Houses

Yasushige Morikawa, Kazuhiko Umeda and Hirohumi Horata



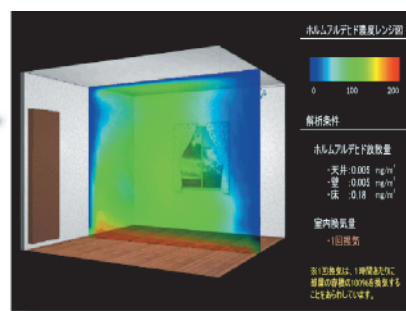
「住まいの問診票」の診断結果例



「住まいの簡易診断システム」の入力画面例



「住まいの簡易診断2001」



ホルムアルデヒド濃度のCFD解析例



ホルムアルデヒド解析結果例

研究の目的

室内化学汚染は、専門技術者などに調査を依頼すれば、汚染状況や改善策の把握ができます。しかし、住宅をはじめ建物毎に調査するには、多大な費用と時間が必要です。そこで、住まい手などが、汚染の原因や改善策を容易に確認できるツールがあれば便利です。筆者らは、汚染の予測や対策などを総合評価できるシステム（以下、総合情報発信・評価システム）の構築を目的としてツールを開発しました。

技術の説明

総合情報発信・評価システムには、「マニュアル」と「住まいの簡易診断2001」が含まれています。「マニュアル」では、Q&A形式で約100項目の化学汚染対策を紹介しています。「住まいの簡易診断2001」には、「住まいの問診票」と「住まいの簡易診断システム」があり、室内化学汚染の簡易評価が可能です。

主な結論

「マニュアル」では、「シックハウス事典(技報堂出版)」に筆者らの研究成果を紹介しています。また、「住まいの簡易診断2001」は、(社)日本建築学会のホームページで一般公開（平成14年5月現在）され、同学会の「清浄空気・建築憲章」でも紹介されています。

※本報告では、科学技術庁（現文部科学省）の科学技術振興調整費の助成を得て、(社)日本建築学会の室内化学物質空気汚染調査研究委員会（IAPOC: Indoor Air Pollution by Organic Compounds、委員長：慶應義塾大学村上周三教授（当時、東京大学教授））で推進してきた研究課題「室内化学物質空気汚染の解明と健康/衛生居住環境の開発」の3年間（平成10～12年度）の研究成果に基づき、筆者らが開発を担当した室内化学汚染対策ソフト「住まいの簡易診断2001」を中心に紹介しています。